



ウメソー通信

平成31年1月号

今月のトピックス

忘年会・新年会・パーティーシーズン到来！ 知っておきたいお酒対策

年末年始は、忘年会や新年会、パーティーなどが目白押し。ついついお酒の量が多くなり、二日酔いに悩む人も増える季節です。薬剤師で国際中医師の山口りりこさんは、そんなときは漢方薬を利用するのがおすすめだと話します。

「二日酔いの原因は、体質によって異なります。漢方薬はその人の体質に応じて使い分けられるので、予防と症状緩和に役立ちます」（山口さん）

二日酔いのときにだるさやむくみ、頭痛、気持ち悪いといった症状がよく起こるといえる人は、水分代謝が悪いことがその原因です。二日酔い予防としてお酒と一緒に水を飲む人が多いですが、このタイプは冷たい水を飲みすぎると胃腸を冷やし、さらに水分代謝を悪くして逆効果になってしまうことがあるといいます。「お酒を飲む際は、できるだけ温かい飲みもので水分をとるように意識しましょう。さらに寝る前にも温かいお湯を飲むのがおすすめです」（山口さん）

このタイプの二日酔い対策には、水分代謝機能を整える働きがある「五苓散（ごれいさん）」という漢方薬がおすすめです。食事の30分前に飲み、飲みすぎた場合は、寝る前にも服用すると効果的です。

一方、二日酔いのときに激しい嘔吐やしつこい下痢、臭い便が出る、おなかがゴロゴロ鳴るといった症状が見られる人は、胃腸に熱がこもっているために二日酔いを引き起こしていると考えられます。この場合、胃の熱をほどよくとることがポイント。「半夏瀉心湯（はんげしゃしんとう）」という漢方薬が二日酔い対策になります。「嘔吐とは、体内でめぐっている気（き＝エネルギー）が逆流しているために起こる症状と考えられています。半夏瀉心湯は、その気の逆流を下方におろして症状を緩和する漢方薬です」（山口さん）

五苓散と同じように、食事の30分前と寝る前に飲むといいでしょう。

また、両タイプに共通する二日酔い対策は、飲んだ翌朝には無理にごはんを食べずに、すりおろしたショウガを適量溶かした具なしの味噌汁だけをとって、胃腸の働きを回復させること。疲れやすい胃腸を上手にいたわって、年末年始のお酒の席を楽しんでください。



以上

※掲載内容の無断転載を禁じます

監修者：山口りりこさん

薬剤師、国際中医師、国際薬膳師。銀座の薬膳レストラン「kampo's」プロデューサー。星薬科大学にて薬剤師免許を取得し、遼寧中医薬大学にて国際中医師、国際薬膳師を取得。漢方薬局勤務をへて、現在は薬膳レストランの監修をメインに商品開発やエステのメニュー監修などに携わっている。自身が監修した、美容の目的に特化した手帳『月・薬膳・ヨガでどんどんきれいになる！ 月美容手帳 2019』（エイアンドエフ）が、ロフトほか全国書店で発売中。



株式会社 ウメソー

〒733-0002 広島県広島市西区楠木町3丁目16-4-2

TEL:082-238-2332 FAX:082-230-2442



安全運転アドバイス



睡眠不足と睡眠障害

運転中の眠気は「居眠り運転」につながり非常に危険です。眠気を招く大きな要因の一つに「睡眠不足」があります。また、「睡眠時無呼吸症候群」などの睡眠障害も日中の眠気を招きます。そこで今回は、眠気の要因となる睡眠不足と睡眠障害を取り上げてみました。

◆睡眠不足

・認知・判断・操作の全てにわたって悪影響を及ぼす

睡眠不足は「居眠り運転」の大きな要因となりますが、その状態にまでは陥らない場合でも、集中力や注意力が薄れる、持続力がなくなる、判断力が鈍る、操作が雑になるなど、認知・判断・操作の全てにわたって悪影響を及ぼし、事故につながりやすくなります。実際、世界各国の研究をみると、睡眠時間が6時間未満の者では、7時間の者と比べて、居眠り運転の頻度が高いことや、交通事故を起こした運転者で、夜間睡眠が6時間未満の場合に追突事故や自損事故の頻度が高いことなどが示されています。

・健康起因事故の引き金になるおそれもある

睡眠不足が続くと疲労も蓄積されて、死亡事故に係る違反で最も多い「漫然運転」につながるおそれがあります。また、睡眠不足が続くと、高血圧や心筋梗塞、脳梗塞といったリスクも大きくなると言われており、「健康起因事故」（運転中に心疾患や脳疾患などに襲われるなど健康状態に起因する事故）の引き金となるおそれもあります。

◆睡眠障害

睡眠障害の代表的なものとして「不眠症」、「睡眠時無呼吸症候群」、「過眠症」、「概日リズム睡眠障害」などがあげられます。これらはいずれも日中に眠気をもたらすおそれがあり、睡眠不足と同様に運転に影響を及ぼす可能性があります。なかでも、眠っているときに呼吸が停止したり低呼吸の状態になり、日中に突然強い眠気を引き起こす「睡眠時無呼吸症候群」は、睡眠中に発生する症状であるため自分ではなかなか気づきにくいと言われており、事故を起こした後の検査で罹患が判明したというケースもあります。

◆適切で質の良い睡眠を確保するための留意点

・毎日6時間～8時間の睡眠をとる

健康を保持し睡眠不足に陥らないための適切な睡眠時間は、個人差はありますが、6時間～8時間だとされています。睡眠不足を休日などの「寝だめ」で解消することはできません。また、睡眠不足が続くと、疲労の回復も難しくなりますから、毎日6時間～8時間の睡眠時間を確保しましょう。

・就寝前の飲酒やカフェイン接種等は避ける

眠りやすくするよう就寝前に飲酒をする、いわゆる寝酒は、一時的に入眠を促進しますが、途中で目が覚める頻度が増えて睡眠が浅くなり、熟睡感が得られないと言われていています。コーヒーや紅茶などに含まれるカフェインには覚醒作用があり、3時間程度持続すると言われていていますから、就寝前に摂取すると入眠を妨げたり睡眠を浅くするおそれがあります。パソコンやスマートフォンなどから出る「ブルーライト」は睡眠の質を悪くすると言われていています。就寝前の飲酒やカフェインの摂取、パソコンやスマートフォンの使用はできるだけ避けましょう。

・眠くなってから寝床に入る

眠くないのに無理に眠ろうとすると、眠りを意識してしまい頭が冴えた状態となって、かえって寝付きを悪くします。スムーズな眠りにつくために、寝る前に心身ともにリラックスした時間を作り、眠くなってから寝床に入るようにしましょう。

・日中に強い眠気を感じたり、眠りに違和感を感じたら早めに専門医に相談する

日中に強い眠気を感じたり、周囲から激しいいびきを指摘されたり、就寝時に足にむずむず感がある、睡眠中の手足がびくつくなど、眠りに違和感を感じたときは睡眠障害のおそれがありますから、専門医に相談しましょう。特に「睡眠時無呼吸症候群」の場合は、高血圧や糖尿病などの生活習慣病や、心疾患や脳疾患の原因にもなると言われていますから、早めに対応することが大切です。